

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部第1類哲学専修課程卒業
1986年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程修士課程修了
1988年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程退学
1988年4月	東京大学文学部助手
1992年4月	立命館大学文学部助教授
2001年4月	立命館大学文学部教授
2003年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2009年9月	東京大学より博士（文学）の学位を取得
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

ドイツ現代哲学、ケアの哲学

b 研究課題

ドイツ現代哲学のなかでも、とりわけフッサール、ディルタイ、ハイデガー等によって展開された現象学・解釈学に関する歴史的・体系的研究を行っている。またこれらの文献的研究と並行して、哲学と社会的実践とを繋ぎ、結ぶ試みとして、看護を中心とするケアの具体的営みから、「ケアの現象学」「医療現象学」として、現象学の精神に基づく「ケアの哲学」を立ち上げる研究を行っている。この研究は、看護・医療に現象学という哲学の立場から寄与することを目指すとともに、臨床の具体的実践から学んで「事象そのものの方から」現象学を新たに立ち上げることを目指すものである。この試みによって現象学という哲学に新たな光を当て、既存の学説を見直すことも可能になるのではないかと期待している。

c 概要と自己評価

フッサールを中心とする現象学の歴史的・体系的研究に関しては、フッサール現象学、およびそれと西田哲学との関係について、さらにフッサールとハイデガーとの思想的関係について、ドイツ語、英語、日本語の論文ないし口頭発表にて研究成果を公にした。また、「ケアの現象学」「医療現象学」として「ケアの哲学」を立ち上げる試みに関しては、フッサールとハイデガーの現象学に基づきつつ、ケアの営みの哲学的解明を行ったドイツ語論文を公にするとともに、看護研究者との共著で具体的な看護実践の構造をフッサールの「志向性」概念を手がかりに現象学的に解明する論文を公にすることもでき、この論文を含むケアの実践への現象学的アプローチの諸論文を集めた共編著『ケアの実践とは何か——現象学からの質的研究アプローチ』を刊行することもできた。こうした研究活動のなかで、看護と哲学、看護実践と現象学とが相互に学び合う関係にあることも明らかとなり、この点については日本語の論文にまとめた。学会での発表や講演は、哲学系、看護・医療系の双方で行ったが、哲学系の学会では、ケアの現象学的研究が哲学としての現象学に新たな光をもたらすことに、また看護系・医療系の学会では、現象学が看護・医療に寄与しうることと重点を置いて、日本語ないし英語で研究成果を公にした。このうち看護・医療系学会等での発表や講演は、研究成果を社会に還元する活動となったが、とりわけ、臨床実践の現場と現象学という哲学とを繋ぎ、結ぶ目的で設立された「臨床実践の現象学会」の第3回大会を2017年8月に大会長として開催したことは、自身にとって大きな意味をもつ経験となった。これらの研究・教育活動は総じて、相当程度の成果をあげることができたと判断される。

d 主要業績

(1) 著書

編著、西村ユミ／榊原哲也（共編）、『ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ』、ナカニシヤ出版、2017.9

(2) 論文

榊原哲也、「現象学はあなたにもきっとおもしろい！ 教務主任養成講習会を通して」、『看護教育』、第57巻第4号、250-257頁、2016.4

榊原哲也、「フッサール——発生と解体」、秋富克哉・安部浩・古荘真敬・森一郎編『続・ハイデガー読本』、法政大学出版局、149-156頁、2016.5

Tetsuya Sakakibara, „Caring bei Husserl und Heidegger“ *Phänomenologische Forschungen, Jahrgang 2015, Lebenswelt und Lebensform*, herausgegeben von Christian Bernes und Annika Hand, Jahrgang 2015, S. 119-133, 2016.5

榊原哲也、「看護と哲学——看護と現象学の相互関係についての一考察」、『看護研究』、第49巻4号、258-266頁、2016.7

榊原哲也、「新たな「ケアの現象学」」、『神戸看護学会誌』、第1巻第1号、11-23頁、2017.3

榊原哲也、「記述するとはどういうことか——現象学の立場から」、『臨床精神病理』、第38巻第1号、57-64頁、2017.4

Tetsuya Sakakibara, „Kitarō Nishida“, in: Sebastian Luft / Maren Wehrle (Hg.), *Husserl-Handbuch. Leben – Werk – Wirkung*, J. B. Metzler, Stuttgart, 244-246, 2017

榊原哲也、「死生のケアの現象学」、清水哲郎／会田薫子編『医療・介護のための死生学入門』、113-140頁、2017.8

榊原哲也、「現象学と現象学的研究」、西村ユミ・榊原哲也編『ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ』、1-21頁、2017.9

西村ユミ／榊原哲也、「看護実践の構造：フッサールの志向性概念との対話」、西村ユミ・榊原哲也編『ケアの実践とは何か：現象学からの質的研究アプローチ』、204-266頁、2017.9

(3) 学会発表

国内、榊原哲也、「現象学的視点から見た透析患者への指導」、第61回日本透析医学会学術集会・総会 ワークショップ15「サステイナブルな患者指導を考える」、大阪府立国際会議場、大阪市、2016.6.12

国内、榊原哲也、「記述するとはどういうことか——現象学の立場から」、第39回日本精神病理学会 シンポジウム I 「臨床記述の復権」、アクトシティ浜松コンgresセンター、静岡県浜松市、2016.10.7

国内、榊原哲也、「新たな「ケアの現象学」」、神戸看護学会第1回学術集会記念講演会、神戸市看護大学、神戸市、2016.10.30

国際、Tetsuya Sakakibara, “Phenomenology in East and West: Husserl and Nishida in the 1930’s,” International Transverse Philosophy Conference 2017 East & West. Philosophical Perspectives on Pluralism, organized by The Philosophical Education Project towards Transverse Thinking BK21PLUS, Chonnam National University, Gwangju, Korea, 2017.2.22

国内、榊原哲也、「現象学だからできること」、臨床実践の現象学会第3回大会、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）、2017.8.6

国際、Tetsuya Sakakibara, “Un Forgettable Patient: A Phenomenological Approach to Dialysis Nursing Care”, International Conference on “Emmanuel Levinas and East Asia”, National Sun Yat-sen University, Kaohsiung, Taiwan, 2017.9.22

国内、榊原哲也、「患者をトータルに見るとはどういうことか——精神科看護への現象学からのアプローチ」、日本精神科看護協会東京都支部 第9回東京精神科看護学術集会、武蔵野大学武蔵野キャンパス（東京都西東京市）、2017.11.18

国内、榊原哲也、「あらためて心と身体の関係を考える——現象学の視点から——」、第61回日本心身医学会近畿地方会・第48回近畿地区講習会、関西大学梅田キャンパス（大阪市）、2018.1.20

国際、Tetsuya Sakakibara, “Phenomenological Research of Nursing and Its Method”, International Conference on “Phenomenology Pure and Applied”, Seoul National University, Seoul, Korea, 2018.2.24

国際、榊原哲也、「日本における現象学の動向——ケアと医療の現象学：〈向き合うこと〉と〈寄り添うこと〉」、心性現象学論壇第16期、中山大学哲学系（中華人民共和国・広州市）、2018.3.12

(4) 会議主催(チェア他)

国内、臨床実践の現象学会第3回大会、大会長、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）、2017.8.6

国内、「日本現象学・社会科学会第34回大会」、実行委員長、シンポジウム「当事者の声を聴くことから研究へ」、2017.11.25

(5) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B)、榊原哲也、研究代表者、「医療現象学の新たな構築」、2016～2018

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

太田総合病院合同看護部研修会、講義「看護に活かす現象学」、太田看護専門学校、福島県郡山市、2016.9

医療・介護従事者のための死生学 2016年度夏季セミナー、講義「ケアすることとケアされること——現象学の視点から」、東京大学、2016.7

NHK文化センター町田教室、講義「死生のケアの現象学」、2016.10～2017.1

日本看護学校協議会 平成28年度第2回教育研修会、講演「現象学的人間観と看護教育」、東京都千代田区、2016.12

平成 28 年度愛知県立大学大学院看護学研究科特別講演「看護ケアと現象学、そして看護研究」、2017.2
平成 29 年度日本看護学校協議会 教務主任養成講習会、特別講義「現象学と現象学的看護理論—現象学を看護教育にどう活かすか—」、公益社団法人大阪府看護協会桃谷センター、大阪市、2017.6
NHK文化センター町田教室、講義「一日でわかるフッサール」、2017.7
静岡県自治体立看護学校協議会 教務担当者研修会、「講義「現象学的人間観を看護教育に」とグループワーク」、静岡県静岡市、2017.8
平成 29 年度 愛知県看護教育研究会 第 1 回夏期研修会、「講義「現象学の視点から学生を理解する—現象学を看護教育にどう活かすか—」とグループワーク」、愛知県名古屋、2017.8
医療・介護従事者のための死生学 2017 年度夏季セミナー、講義「今でも忘れられない患者さん—いのちに向き合うケアの現象学」、東京大学、2017.9
第 2 回生活習慣病患者の心と健康の支え方を考える会、特別講演「慢性腎臓病医療に活かす現象学」、稲城市立病院、東京都稲城市、2017.9
平成 29 年度愛知県立大学看護学部 FD 企画、講演「現象学的視点からペナールを読み解く」、愛知県立大学守山キャンパス、愛知県名古屋、2017.11

(2) 他機関の外部委員

首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会 外部委員 (2016～2017 年度)
日本赤十字看護大学研究倫理委員会 外部委員 (2016～2017 年度)
九州大学大学院人文科学研究院 外部評価委員 (2017 年度)